平成30年度に実施した地方創生関連交付金を活用した事業に係る事業検証
(大和高田市まち・ひと・しごと創生会議委員及び市議会議員の方々による意見の概要)

1 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議について

大和高田市人口ビジョン及び大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関し、幅広い意見を聴取することを目的に設置された会議です。同会議は、市民、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体の各代表者14名で構成。令和元年9月27日（金）に実施し、総合戦略関連事業についての効果検証等を行いました。また令和元年12月から令和2年1月にかけて、大和高田市議会議員の方々へ、本市が平成30年度に行った地方創生関連交付金を活用した事業に係る資料を配布し、当該事業に係る意見を記述式の方法により求めました。

(大和高田市まち・ひと・しごと創生会議委員構成)

会長 鶴谷 将彦 氏 (奈良県立大学地域創造学部准教授)
副会長 増田 武雄 氏 (大和高田市町総代連合会会長)
委員 浅野 誠 氏 (大和高田商工会議所専務理事)
石川 俊博 氏 (連合奈良中和地域協議会事務局長)
植島 岳之 氏 (市民)
柏木 信男 氏 (大和高田公共職業安定所所長)
小松 丈夫 氏 (市民)
竹邑 秀隆 氏 (南都銀行高田支店支店長)
富田 穎子 氏 (市民)
前川 慎子 氏 (大和高田市民生児委員協議会連合会児童福祉部会部長)
村田 浩明 氏 (奈良県農業協同組合新庄営農経済センター所長)
榎本 美香 氏 (市民)
松田 秀雄 (大和高田市副市長)
梶木 義敏 (大和高田市教育長)

2 地方創生推進交付金を活用した事業（やまとたかだの産業力強化事業）についていただいたご意見

①全体として

- ・産業力強化ということで、商工業全般にわたる活力を取り戻し、まちを活性化させていくという目的だが、実際どのような起業で、また実績値も記載はあるが、市民にはよく分からない。
- ・将来の人口減少が懸念される本市において、市民生活の基盤となる「しごと」を安定的

に確保し継続していくために必要な産業力の強化は、市の活性化と人口問題改善に向けて特に重要な課題である。一方、産業界においても人口の減少に伴う働き手の不足は、経営を圧迫し、延いては企業の存続に関わる問題となる。このような喫緊の課題に対し、今回、市では地方創生推進交付金を活用して地域産業振興を図る事業に取り組んだ。その内容は、資金補助による起業・創業支援、専門家派遣による経営力向上、および販売力強化に繋がるブランド力向上支援であった。今後、これらの産業振興支援事業については自立して継続していくが、本事業結果をもとに更に幅広く地域の意見を聴き、その調査エビデンスに基づいた地域の事情により適合した事業を計画することが地域産業振興のために肝要である。さらに事業をより効果的にかつ持続的に推進していくには、産官学金連携体制の検討も必要と考える。

- ・実績値への事業実施効果の寄与度が不明であったと言える。
- ・本件の目的である「やまとたかだの商業全般にわたる活力を取り戻し、まちを活性化させていく」が、この3年間に行った施策でどのように変わったのかを（良くなった、悪くなった等）住民、商工業者にアンケートを取る等、現状の把握と成果と反省が必要である。
- ・アピール不足ではないかと思う。商店街の取り組みがNHKニュースで報道される等があったが、本事業を市民が認知している、期待しているとは言えない状況ではないか。
- ・全体的に効果があったとは思われない。
- ・様々な事業において市民への周知徹底が必要であると思う。

②起業家支援及び事業後継者支援事業

- ・過去に支援を受けた事業の追跡調査をして、その後の支援の参考にし、IT企業を志す若い人材の育成や小さな店を持ちたい方にも力を入れるべきである。
- ・起業家支援について、目標値には届かないものの、毎年10件以上の起業がなされていることは評価できると考える。そのうえで、起業した事業は今日現在、継続しているのか？またこの指標は新規起業件数であるが、廃業件数との対比はどのようになっているのか。総合的にみて、産業力の強化につながっているのか分かりづらい。
- ・KPIについて目標値に到達しなかったが、実績値を勘案すると着実に起業・創業および経営力向上に貢献したと言える。
- ・起業家、事業後継者の支援としては、商工会議所のHP、事業計画のサポートだけでは弱いように思う。HPの閲覧数が起業等につながっているかの検証が必要である。

③さくらコットンについて

- ・売り上げは伸びているが、平成30年をピークに頭打ちしていると思う。さくらコットンの売り上げを伸ばすには、商品開発と、製品はどこでどのように製造され、どこの店で売っているのかを高田市民に広く知って頂いて贈答や進物に、また個人用にも購入しやすくするべきだと思う。

・さくらコットン製品の売り上げは伸びており、すごいことだが、市民への浸透はまだまだだと思う。自身も製品が売っている場所を知らない。容易に手に入るような場所があれば良い。またブランド力向上事業について、学校との連携による糸紡ぎ体験会はとても良いことだと思う。しかし上質なコットンで乳幼児向きであるので、小さい子がいる親や、祖父母世代にもPRできるイベントが頻繁にあれば良いと思う。

・市民でさえ、どこで販売されているのか、分からない。またオーガニック・綿の良さや品質の良さなどのPRを考え直して、例えば赤ちゃん誕生のお祝いに市からさくらコットン製品をプレゼントすれば、もっと市民へのPRにつながる。

・達成率を見ると素晴らしい結果だが、28年度の店舗増の効果が絶大と言える。おそらく、通販を含めた販売増が主要因と考えられる。今後について、綿花の栽培能力（規模）拡大や製品の生産工場の増、販売ルート拡充などとあわせて「教材」としての利用、「インテリア装飾品」としての活用など用途の拡大も課題ではないか？値段が高くても買う人は案外いるもので、更なる”ブランド力”の向上が望まれる。

・実績値から判断すると売上高の向上と取扱い店舗の増加に繋がったと言えるが、達成率が著しく高い値となったことから計画時における目標値の予測が不十分であった。

・目標達成はしており、一定の成果は得られたが、今後の課題として取り扱い店舗を増やすことで、売上高増加、認知度の上昇（PR方法の検討）と好循環を生み出す施策が必要である。

・大変良いことだと思うが、商品の紹介などをネットでは、確認できるが、身近で商品を見ることができるよう、商業施設に常設のコーナーを出展して、もっと地場商品をアピールしても良いのではないかと思う。

・さくらコットンをブランド化するのは良いが、販売を拡大できる生産体制の充実も同時に必要ではないかと考える。

・市民の皆様がさくらコットンについてまだまだ知らないと思う。

④市内商店街地域活性化事業について

・商売をやってみたいと望んでいる若い方に、市が空き店舗を斡旋し、できるだけ安く借りられるよう協力していけば商店街がにぎわい、買い物客も増えるのではないかと考えます。空き店舗で事業をしたくても、家賃が高すぎるために、それに見合った収入が期待できないので、躊躇すると様々な人から聞いたことがある。

・商店街の活性化を考えるのであれば、商店街の空き家を無料で貸し、起業家といかないまでも、手作り作品やさくらコットン製品、市内の子どもたちの作品を置く等すると、子育て世代の足が向くのではないか。

・ウェルカムボードの作成は良い取組みであった。商店街の活性化を図るには、まず空き店舗を少なくする工夫が必要である。（事業者を誘致、家賃補助等の検討）

・元気ウィークなどで高田商業高校から出店しているが、加えて本事業とリンクした取り

組みを検討できないか。

- ・市内商店街活性化事業では、各店での取り組みは評価されるが、抜本的、問題解決に取り組むべきである。

⑤イルミネーション点灯事業

- ・小さい子から高齢者まで参加でき、とても良い事業だと思うが、毎年少しずつイルミネーションを増やしたり、様相を変えるなどして、目新しいものがあると良いと思う。またコスモスプラザだけではなく、コスモスプラザを起点として片塩商店街～高田市駅までイルミネーションがつながり商店街一帯に人が集まる流れになれば良いと思う。
- ・目的が市外の顧客の取り込みであることを踏まえると、有効に活用できているか検証が必要である。防犯面や明るい雰囲気作りには役立っていると思う。
- ・点灯式にはイベントを開催しても良いのでは。(例えば発表会や踊り、演武など)
- ・駅前で行った方が良いと思う。
- ・コスモスプラザでのイルミネーション点灯をはじめライブ等、様々な取り組みは市民にとっても親しみやすいものになっている。今後は交流スペースをさらに活用してもらいたい。

⑥他地域商工業者との交流事業

- ・他の商工業者との商談会や交流会は非常に良い取り組みである。今年のイベントでも更なる来場者の増加に期待している。

⑦商工業者への専門家派遣事業

- ・企業は必ず何かしらの悩みを持っているので、待ちの姿勢ではなく、能動的な活動が必要である。
- ・f-Bizのような取組みを参考にしているか？

⑧各事業に係る臨時雇用賃金

- ・事業の成功の可否は、計画を立てる人材に左右される部分が多いため、企画力のある能力の高い人材の確保が必要である。(インセンティブをつけてみる等)